

↓町内の金田分署から救急車が現場へ急行。24 時間体制で待機し、救急救命士ら3 人が同乗する。



INTERVIEW



田川地区消防署 金田分署長
伊藤 政晴 消防司令

救える命を救うために

心臓停止から3分で50%が死亡、通報から救急車到着まで平均6分、通報までの時間も含めると家族の救急法は不可欠です。消防では1秒でも早く処置できるような技術を向上させていますが、管内の救急車が出れば本来救える命も救えなくなります。ぜひ救急車の適正利用をお願いします。

1秒を争う命がある
救急車の出動件数が急増しています。昨年、田川管内で救急車が出動した件数は7千699件。そのうちの約35%が軽症のケースでした。福智町への出動は1千187件。1日平均で約3回も町内に救急車が出動したことになります。法定数で限りがある救急車は、田川市

郡にわすから台しかなく、田川本署・金田分署・川崎分署・添田分署・香春分署所にそれぞれ1台ずつ配備されています。 unnecessaryな利用が増えると、本来必要な出動に時間がかかったり、遠方から出動することを余儀なくされ、1分1秒を争う「助かる命」を救えなくなります。緊急性がない場合やタクシー代わりに救急車を呼ぶことは絶対にやめてください。

救急通報119をしたら

次のことにお答えください

火事ですか

救急ですか

場所はどこですか

近くに目標物は(店舗・公共施設など)

何が燃えていますか

どんな状況ですか

- ・建物か
- ・車両か
- ・原野か

- ・意識は
- ・呼吸は
- ・脈は

どんな状況ですか

かかりつけの病院

あなたのお名前は

電話番号は

携帯では違う地域につながる可能性があるため、携帯での通報であることを伝え、必ず現在地を知らせてください。

↓管内の119番は田川地区消防本部の指令室が対応。



サイレンが聞こえると災害情報を119番に問い合わせる人がいます。災害が大規模なほど回線がパンク状態になり、本来の119番通報が受けられなくなります。休日夜間の病院の問い合わせも同様です。情報を知りたい場合は、緊急用の119番ではなく、次の番号へお問い合わせください。

災害情報のお問い合わせは災害情報案内へ

☎42-0119

休日夜間の病院の問い合わせは消防本部へ

☎44-0650



↑画面で現場を確認しながら車両の出動を指示します。

1 反応の確認

耳もとで「大丈夫ですか」または「もしもし」と大声で呼びかけながら、肩を軽くたたき、反応を確認します。

2 助けを呼ぶ

反応がないときは大きな声で助けを求めます。人が来たら「あなたは119番通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と頼みます。周りに誰もいない場合は自分で119番通報します。

3 気道の確保

片手を額に当て、もう一方の手の人差し指と中指の2本をあご先に当てます。頭を後ろにのけぞらせ、あご先を上げて空気の通り道(気道)を確保します。

4 呼吸の確認

息をしているか、胸は動いているかなど、正常な呼吸があるかどうかを確認します。呼吸がない場合、しゃくり上げるような、途切れ途切れの呼吸が見られる場合は、正常な呼吸はありません。

5 人工呼吸

額に当てた手の親指と人差し指で鼻をつまみ、大きく口を開け、胸が上がるのが分かる程度の息を約1秒かけて吹き込みます。これを2回繰り返します。人工呼吸ができない場合は省略して次に移ります。

6 心臓マッサージ

胸の真ん中(胸骨)を、重ねた両手で30回「強く、速く、絶え間なく」胸が4～5cm沈む程度の圧迫を垂直に行います。その後、人工呼吸2回・心臓マッサージ(胸骨圧迫)30回のセットを繰り返します。

7 AEDの使用

AEDが届いたら音声に従って作業します。まず電極パッドを傷病者の右上と左下の胸にはり付けます。AEDが自動的に心電図を解析するので傷病者から離れてください。電気ショックの準備後「ショックボタンを押してください」というメッセージが流れますので、周囲の人を離れてボタンを押します。電気ショックが完了したら、すぐに心臓マッサージ(胸骨圧迫)30回・人工呼吸2回のセットを5サイクル程度繰り返します。2分ほど経ったらAEDがまた自動的に心電図の解析をはじめますので、音声に従ってください。

【バイスタンダーが命をつなぐ】

119番通報→心肺蘇生→AED

→救急隊員への引継ぎ→病院という命をつなぐリレーを「救命の連鎖」といいます。なかでもバイスタンダー(現場に居合わせた発見者や同伴者)の手段が救命率を左右します。



知っておきたい。

命をつなぐリレー

大切な人を救うために

大切な人が突然倒れ、心臓も呼吸も止まっている。4分で脳に酸素不足による障害が発生する。救急車が到着するまで平均6分。その間、あなたがしなければならぬことは？ そう「心肺蘇生」です。

↑「できる、できないを考えるより、まず「助けよう」とする勇気を持つことが大事です。自分の子や大切な人が目の前で倒れたときおきかえて、その時自分に何ができるか、何をしなければならないかを考えれば、心肺蘇生法もより早く身に付くと思います」。田川地区消防署 救急救命士 浦野 晃一 消防司令補